

令和元年度

長期研修者研究抄録



鹿児島県総合教育センター

令和元年度長期研修研究主題一覧

番号	所属校	氏名	研究主題
1	鹿児島市立広木小学校	尾前 智子	今こそ図工！私の思いが未来を創る －創造性を育む図画工作科の指導と評価の工夫－
2	鹿児島市立西伊敷小学校	田代 祐二	伝えたい！知りたい！ コミュニケーションを楽しむ児童の育成 －外国語を話したくなる学習指導の工夫を通して－
3	南さつま市立加世田小学校	鎌迫 一成	「ゴール！」を目指し、楽しさや喜びを味わう児童の育成 －「わかる」「かわる」「かかわる」体育科指導の工夫を通して－
4	薩摩川内市立永利小学校	宇都 佳敬	カギは学び合いの活性化！筋道を立てて考え、数学的に表現する力の育成 －数学的な見方・考え方を働かせて－
5	鹿屋市立野里小学校	下津 慶一	自分に問い掛け、友達に問い掛ける －「道徳科学びの姿モデル」を活用した指導と評価－
6	霧島市立舞鶴中学校	高木 秀和	不登校の未然防止を目指した取組 －自己有用感を高める三つの「いいね！」－
7	南大隅町立根占中学校	中村 恵理	授業が変わる！生徒が変わる！！ 学びの深まりを実感する国語科学習指導 －「学びをつなぐ振り返りシート」の活用を通して－
8	県立鹿児島工業高等学校	脇本 由里香	「既習の語彙で伝わった！」を実感できる 高等学校英語科学習指導の工夫
9	県立加治木工業高等学校	亀田 卓身	「もっと知りたい！」の思いをもつ未来の工業技術者の育成 －「情報技術基礎」の指導を通して－
10	県立南薩養護学校	佐々木 徹	知的障害のある児童の言語表現に関する指導・支援 －アセスメントに基づいた指導・支援の工夫を通して－

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
1	図画工作	尾前 智子	鹿児島市立広木小学校	今こそ図工！私の思いが未来を創る ー創造性を育む図画工作科の指導と評価の工夫ー	<p>本研究は、児童に創造性を育む図画工作科の指導と評価の在り方について研究したものである。</p> <p>創造性は、図画工作科の学習の様々な瞬間に発揮されている。児童の創造性を育むためには、児童に創造性の基盤となる思いをもたせ、創造性を発揮させ続けることと、自ら創造性が発揮できることを実感させることが必要である。そのために、図画工作科の指導と評価は、児童一人一人の思考の流れを見取り、活動に寄り添いながら、形成的評価と指導を繰り返すものである。</p> <p>そこで、本研究では造形的な視点で思いと表現との関係性を捉えさせるための手立てを講じ、表現と鑑賞の活動を一体的に行った。そして、拡散的思考を促したり、発明先行構造をつくらせたりすることで、思いを明確にしたり、発想につなげたりする手立てを行った。また、視覚的に達成度の分かる自己評価と、思考をつなぐワークシートの工夫を行った。</p> <p>その結果、児童一人一人に思いをもたせ、創造性を育む指導と評価の在り方について、一つの方向性を示すことができた。</p>
2	外国語	田代 祐二	鹿児島市立西伊敷小学校	伝えたい！知りたい！コミュニケーションを楽しむ児童の育成 ー外国語を話したくなる学習指導の工夫を通してー	<p>本研究は、児童が外国語を話したくなる学習指導を工夫することによって、外国語を用いながらコミュニケーションを図ることを楽しむ児童の育成を目指した研究である。</p> <p>外国語を用いながらコミュニケーションを図ることを楽しむ児童を育成するためには、児童が「伝えたい」、「知りたい」という思いをもち、相手の立場に立って主体的に考えや気持ちを伝え合うことによって、達成感や充実感を味わわせることが重要である。</p> <p>本研究を通して、外国語を用いながらコミュニケーションを図ることへの自信が生まれ、「誰に」、「何のために」という相手意識や目的意識をもって、主体的に考えや気持ちを伝え合おうとする児童の姿が見られた。</p>
3	体育	鎌迫 一成	南さつま市立加世田小学校	「ゴール！」を目指し、楽しさや喜びを味わう児童の育成 ー「わかる」「かわる」「かかわる」体育科指導の工夫を通してー	<p>本研究は、ボール運動に焦点を当て、「『ゴール！』」を目指し、楽しさや喜びを味わう児童の育成」をするために、「ゴール型」における学習指導や指導計画の工夫に関する研究を行ったものである。</p> <p>具体的には、実態調査から課題を把握し、ボール運動の特性に触れて味わう楽しさや喜びについて分析して、本研究における方向性を明らかにした。1単位時間における学習指導の工夫として、本時の課題を具体的に把握させる「チェックタイム」、体を動かしながら解決方法について話し合い、共有したことを繰り返し試行させる「チェンジタイム」、次時に向けた課題や解決方法の見通しをチームで共有させる「チェーンタイム」を取り入れ、単元指導計画の工夫に取り組んだ。</p> <p>本研究を通して、「わかる」、「かわる」、「かかわる」楽しさを感じ、ボール運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わう姿へとつながっていくことを明らかにすることができた。</p>

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
4	算数	宇都 佳敬	薩摩川内市立永利小学校	カギは学び合いの活性化！筋道を立てて考え、数学的に表現する力の育成 －数学的な見方・考え方を働かせて－	本研究は、学び合いの活性化を通して、児童の筋道を立てて考え、数学的に表現する力を育成するために、数学的な見方・考え方を視点として指導の工夫について研究したものである。 具体的には、数学的な見方・考え方を働かせて数学的に表現する姿を具体化し、単元構想に位置付けた。そして、それに基づき、1単位時間ごとの学習を、「個別探究Ⅰ→協働探究→個別探究Ⅱ」という基本的な学び合いの過程として捉え、学び合いが活性化するように、それぞれの過程において、数学的な見方・考え方を可視化したり、数学的な表現を比較・関連付けたりすることができるように指導の工夫を行った。 その結果、児童が筋道を立てて考え、考えたことを簡潔・明瞭・的確に表現する姿や、数学的な表現を活用して考えを伝え合い、考えのよさや事柄の本質に迫る姿が見られるようになった。
5	道徳	下津 慶一	鹿屋市立野里小学校	自分に問い掛け、友達に問い掛ける －「道徳科学びの姿モデル」を活用した指導と評価－	本研究は、自分に問い掛け、友達に問い掛けながら様々な視点で捉え、考え判断し、行動する児童を育成するために、道徳科における指導と評価の在り方について研究を進めたものである。 ねらいを達成するために、まず、道徳科における期待する児童の学習状況を具体化した「道徳科学びの姿モデル」を作成した。次に、「道徳科学びの姿モデル」を活用した指導と評価を構想するために、話合いの工夫等の指導方法の工夫、「価値付け」、「つなぎ」、「問い掛け」などの学習状況に応じた指導について検討を行った。特に、「問い掛け」は、期待する学習状況が表出するような問い掛けの一覧を作成した。 その結果、児童の学習状況に変容が見られた。具体的には、話合いのときに友達に質問しながら考えを深めるなど「道徳科学びの姿モデル」に示される学習状況が見られるようになった。
6	生徒指導	高木 秀和	霧島市立舞鶴中学校	不登校の未然防止を目指した取組 －自己有用感を高める三つの「いいね！」－	本研究は、不登校の未然防止を目指し、生徒の自己有用感を高める三つの「いいね！」の活動の工夫について研究したものである。 具体的には、まず、本研究で目指す生徒の姿や授業の在り方を明確にした。次に、自己有用感の三要素である存在感、承認、貢献を高めるための手立てとして、年間指導計画の作成や授業における話合い活動の工夫、ワークシートの工夫を行った。学級活動において、話合い、認め合い、役割を果たすための場面を設定し、自分の意見を発表し、互いの意見を認め合う活動を行った。さらに、自己有用感の中心要素である存在感を高めるために、認め合うことに加えて、認めていることを互いに伝え合う活動を行った。 このような活動を通して、生徒は合意形成した具体的な行動目標や常時活動を、自主的に実践することができるようになった。 その結果、自己有用感の中心的な構成要素である存在感を高めることにつながり、「普段、学校に行きにくい、または行きたくない。」と感じる学校回避感情が低下し、不登校の未然防止につながれたと考える。

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
7	国語	中村 恵理	南大隅町立根占中学校	授業が変わる！生徒が変わる!!学びの深まりを実感する国語科学習指導－「学びをつなぐ振り返りシート」の活用を通して－	<p>本研究は、国語科の学習指導において、「学びをつなぐ振り返りシート」を活用することで、生徒が、考えの変容（考えの広がりや深まり）を自覚し、学びの深まりを実感する国語科指導の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、まず、国語科の学習で学びの方向性を見通す単元の学習課題を設定した。次に、必要感・必然性をもたせる言語活動の工夫を行った。さらに、学びの価値付けができる振り返りを通して、生徒が一単位時間又は単元を通した学びの成果を確認できるようにした。また、教師も生徒一人一人の振り返りに対して、学びを価値付けることで、学びを見届け、指導の改善や手立ての工夫を図ることができた。</p> <p>その結果、生徒は学びの方向性を見通し、観点を明確にして振り返ることによって考えの変容を自覚し、学びの深まりを実感することができるようになった。</p>
8	外国語	脇本 由里香	県立鹿児島工業高等学校	「既習の語彙で伝わった！」を実感できる高等学校英語科学習指導の工夫	<p>本研究は、生徒の英語学習への苦手意識を軽減させ、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や即興でやり取りする力を育成するために、既習の語彙等を用いて「相手に伝わった」と実感できるような指導の工夫や、目的や場面、状況などに応じた自己表現活動を充実させるための指導の工夫を取り入れた授業について研究したものである。</p> <p>具体的には、帯活動として、「2分間パラフレーズチャレンジ」の時間を設け、未知の単語や表現するのが難しい日本語であっても、対象物や日本語の表す意味を自分なりに解釈し、既習の語彙等を用いて表現できることを生徒に認識させた。また、自己表現活動を充実させるために、事前にルーブリックを提示し、明確な到達目標をもってプレゼンテーションに取り組ませ、コミュニケーションの相手を意識した原稿作りや、プレゼン後の質疑応答に挑戦させた。</p> <p>その結果、英語の学習に対して肯定的な感情が高まり、主体的に英語を話そうとする生徒が増え、即興で話す力の育成につながった。</p>
9	工業	亀田 卓身	県立加治木工業高等学校	「もっと知りたい！」の思いをもつ未来の工業技術者の育成－「情報技術基礎」の指導を通して－	<p>本研究は、「情報技術基礎」の学習内容と専門科目、共通科目、中学校までの既習事項、工業の各分野や身近な社会生活における ICT の活用事例との関連に気付かせることで、専門科目に対する興味・関心を高め、「もっと知りたい！」の思いをもつ未来の工業技術者の育成を目指して研究したものである。</p> <p>具体的には、「情報技術基礎」と関連のある学習内容の整理を行った。次に、社会生活における ICT の活用事例の学習を通して、工業技術者の視点を実感できるようにした。さらに、タブレット端末を活用し、主体的に調査を行ったり、対話をしたりする場面を設定した。</p> <p>その結果、「情報技術基礎」の学習内容と専門科目等や社会生活との関連を感じた生徒や授業後に情報収集を行った生徒が増加した。さらに、対話的な学習を通して、多様な考え方に触れることで新たな気付きが生まれ、「もっと知りたい！」の思いをもつ生徒が増えた。</p>

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
10	特別支援教育	佐々木 徹	県立南薩養護学校	<p>知的障害のある児童の言語表現に関する指導・支援</p> <p>ーアセスメントに基づいた指導・支援の工夫を通してー</p>	<p>本研究は、知的障害のある児童の、言語表現に関する指導・支援に関する研究である。</p> <p>具体的には、よりの確に対象児童のアセスメントを実施し、アセスメントの結果と分析に基づいて、個に応じた学習課題を設定し、音節の動作化や単語を構成する学習、話し合い活動などに取り組み、検証授業Ⅰでは国語科、検証授業Ⅱでは生活単元学習において、言語活動をより充実させることで、対象児童の言語表現力育成のための指導・支援の在り方を検証した。</p> <p>その結果、文字と音を一致させられることが増えたり、片仮名の特殊音節を間違えずに書くことができるようになったりする姿が見られるようになった。</p>